



紙幣
御
自由銀行設立之
因傳平外名
内務省之差烟
見込之紙附箋
三月末底
下名史官
西廻附
治九年十月
大正十一年四月
1208

A14
A1151



大正十一年

[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

414
A1151

紙幣



七月五日

治九年十月一日

得紙幣頭

大正十一年四月

卿

輔



自由銀行設立之儀三月以前在野五者此等為
因傳事外其名亦亦別紙建言者其出之趣
内務省より差廻紙上片一紙種各書之上即
見込之紙附箋より何れ尤太、建言書之事
三月到底、山中、受取、及、助、者、之、名、也
下、官、一、出、廻、付、成、り、就、我、因、之、は、あ、れ、は、何、也

紙廻附案

紙幣
可
留
法
於
吏

大正十一年四月

澤能紙幣頭



儀之月以泊在田五者此可為
別紙建言者其出也
紙幣之上一局
以何元太之建言者
受其及之者
因之其也
案

1208

是書之儀成八年

於馬公布之

法之

出或規之

留置也

可然

以下



泊屋此五番地寄留因傳乎外
身自出銀形設之我之月お成建言者
出有付一石不取用之安素不都合者
有之到底採用之成我之右之右み
右の建言者之即専及之存
不取教以回附言はあり進
史官

史官

大藏大少丞

大藏省
掛
府受
縣付
掛課省

九月廿九日

永田

第二万三百廿九号

自出銀形設之我之月お成建言者
出有付一石不取用之安素不都合者
有之到底採用之成我之右之右み
右の建言者之即専及之存
不取教以回附言はあり進

内務省の事務。東京支那事務局長

内務省の事務。東京支那事務局長

右
左

建言

建言

嘗テ聞ク世ノ文明ニ
ハ富強ナリ其富強ノ
テ民業ヲ盛ニスルニ
ハ貨幣ノ運轉ヲ自由
之レヲ開クノ策ハ時
ニハ有ルヘカラス今
然開ク各國ノ賓客來
化ノ然テ自由ニト
リ然レトモ近世下民
金銀運動ノ道ヲ失ヒ
遂ニ其業

大正十一年
依
繪

建言

嘗テ聞ク世ノ文明ニ進ミ事ノ開廣スル所以ノモ
ハ富強ナリ其富強ノ基ハ乃チ教道ヲ設ケ律法ヲ立
テ民業ヲ盛ニスルニアリ然レトモ之レヲ施スノ術
ハ貨幣ノ運轉ヲ自由ニシ人民ノ融通ヲ開クニアリ
之レヲ開クノ策ハ時裁ノ變ト人民ノ化トニ應セス
ニハ有ルヘカラス今也 王政御維新内外ノ通商駁
然開ク各國ノ賓客來往スルノ盛ニナルコト實ニ造
化ノ然テ由シト雖トモ全ク君德民望ニアル十
リ然レトモ近世下民金銀運動ノ道ヲ失ヒ遂ニ其業

大正十一年
後
月

上文陳述
之ヲ要スル
府ニ收メ而
信五斯燈
其利益殆
其自カ入
間宛民ノ
ヲ保セス甲
地券ハ終
如キモノ
假令ト敷
タル為擲
政府ノ損
蓋シ其

大正十一年

言
明ニ進ニ事ノ開廣スル所以ノモ
強ノ基ハ乃チ教道ヲ設ケ律法ヲ立
ルニアリ然レトモ之レヲ施スノ術
自由ニシ人民ノ融通ヲ開クニアリ
ハ時機ノ變ト人民ノ化トニ應セス
ス今也 王政御維新内外ノ通商駁
客來往スルノ盛ニナルコト實ニ造
シト雖トモ金ク君徳民望ニアルナ
下民金銀運動ノ道ヲ失ヒ遂ニ其業

上文陳述スル其方諸件々敢テ無謂義ニハ無之ト云氏
之ヲ要スルニ其方諸件々敢テ無謂義ニハ無之ト云氏
府ニ收メテ之ヲ民間ニ貸附シ其利益ヲ以テ鐵道電
信及スル燈塔及ヒ其他ノ事業興シ其貸附ノ元金ハ三
ケ年ヲ一期ト定メ毎ケ月ニ利息ヲ受取期年ニ至レハ
其利益殆ト元金ニ倍ス故ニ其元金ノ返却ヲ要セス
テ自カテ其抵當ヲ返却スルノ目的ナリ然リト云氏世
間宛民ノ多キ或ハ資本ホラ借リテ其利ヲ掃ハサルモ其
ヲ保セス果シテ然ラハ則チ滯貸金頻々相生スルノ其
地券終ニ流物トナリ他日之ヲ糶賣セテ欲スルモ其割引
如キモノ數多シテ終ニ其損益相償ハサルニ至ラン然ルハ
假令ト數千萬円ノ地券ヲ政府ノ手ニ存在スルモ其發行シ
タル為損耗ハ到底政府ノ公債タルヲ免カス然ラハ即チ
政府ノ損耗モ亦量ルカラサルナリ且チ之ヲ海外諸州ニ徵スルニ
蓋シ其西復駭モ亦少クナラス因テ令ニ茲ニ所見ヲ陳述ス

得能

ヲ抛テ其身代棄テ國害ヲ醸ス者寡ナカラス甚シキ
ニ至リテハ金ヲ外國人ニ借り其償却ヲ失フニ及ン
テハ我地價ノ証券ヲ終ニハ彼カタメニ棄ハレシコ
トノ弊ヲ恐ル故ニ其換ヲ未然ニ防カスニハアルヘ
カラス之ヲ防クノ道ハ民ヲ富スニアリ民ヲ富スノ
道ハ貨幣ノ運動ヲ開クニアリ之ヲ開クニハ其根ナ
クシテ開クコトヲ得ス其源ハ乃チ方今人民ヲシテ
所有ナサシムルノ地價証券ニアルナリ故ニ政府
ニ於テハ普通ノ証券ト齊シク之ヲ人民ニ與フレト
モ人民ニ於テハ唯是レ家産ノ什寶而已如何トナレ

ハ山河ヲ穿テ田圃ヲ墾シ鑛山ヲ開キ曠野ヲ拓シ或
ハ鑛道電機瓦斯燈ノ便利ヲ設ケ人民自由ノ樂ヲ得
ルニハ其地券ニ通貨ト交換セスニハ其用ヲ辨セテ
レハナリ。偶農商家産ノ為メ金ヲ借ラントテ地券ヲ
携ヘ飄然都會ニ踰蹓シ植物殷富ノ基ヲ得ント欲ス
レトモ元來愚昧ノモノナレハ其徒ノ耳言ニ欺カレ
空ク財本ヲ費シ千辛萬苦金ヲ得ルコト能ハス漸ク
金ヲ得ルト雖トモ譬ハ千金ノ地券ヲ以テ僅カノ拾
當ニ充テ加之高利ヲ貸ラレ又紹々ノタメ多少ノ謝
物ヲ取ラレ歸國ノ期ニ至リテ終ニ其半ヲ失フニ及

フ斯ノ如キニ及ニテ熟レノ時ニ其利潤ヲ得熟レノ
時ニ其償却ノ術ヲ得シヤ實ニ愍然ノ極リ傍觀スル
ニ感ヒス人民ノ困厄爰ニ至テ窮レリ此ニ由テ之ヲ
觀レハ現今ノ急務ハ地券ヲ以テ金ヲ債シ債ス所ノ
金ヲ以テ民業ヲ開クニアリ然レトモ全國人民ノ所
有スル地價証券ニ適スル巨萬ノ金額ヲ備ヘスニハ
之ヲ施行スルコト能ハス故ニ自由為替ノ道ヲ開キ
之ヲ 皇國一統自由銀行ト号シ 其次第目別紙人
畧則ニ記載ス
民自守スル地券ヲ政府ニ出シ其高比較ノ為換券
ヲ發シ人民ヲシテ斷然貨幣ノ融通ヲナサシムルニ

アリ然レトモ又其人ノタメ其害端ヲ醸ス弊ナキニ
シモアラズ依テ防害ノ策ヲモ亦施サスニハアルヘ
カラス夫レ發行ノ為換券ハ從來ノ為換券ト違ヒ曩
ニ人民ノ望ヲ得テ后ニ之ヲ發ス之ヲ發ルニハ地券
ノ於當ヲ得スレテ毫モ之ヲ出スコトナシ其交換ス
ル所ノ地券ハ乃チ天下ノ証券人民ノ什寶安シソ之
ヲシテ資本ノ貨幣ニ備ヘサルコトヲ得シヤ然レト
モ其地券ハ普通貨幣ノ辨ヲナサス曰テ今畧則ノ法
方ヲ以テ各縣下同志ヲ募リ現貨一千三百萬十五萬
圓ヲ直チニ六藏省ニ備ント欲ス且令般ノ為換券ヲ

債スニ元利上消ノ為メ十三ヶ年ヲ限リトシ發行息
チ利潤ノ道ヲ求メ年々歳々資本ヲ倍增シ期年ニ至
リ別紙彙表ニ記載スル巨萬ノ利益ヲ得ル而已ナラ
ズ人民又元金ノ償却ヲナサスシテ其抵當ノ地券ヲ
再ヒ得ルニ至ル然ルトキハ人民ヲシテ自然富有ナ
ラシメン從テ國家ヲ富強スルニ臻ラン夫レ此流通
ノ便宜タルハ合衆聯邦ノ風習ニ倣フト雖トモ亦此
法方ニハ如カナヘシ爰ニ於テ之ヲ設クルニ東京
府下ニ於テ全權ノ銀行本店ヲ築キ大坂府下ニ於テ
第一支店ヲ設ケ各縣下ニ支店ヲ置キコレヲ
皇國

一致同盟會合支店ト号又其為換券ヲシテ通化ナサ
シムルニハ其地方官ノ檢印ヲ捺シ以テ其管下ヲ限
リ其縣外ノ通用ヲ許サハルヲ要スト雖トモ全國一
般ノ為換券ナリ譬ハ東興ノ人西肥ニ航セント欲
セハ西肥ノ為換券ヲシテ東興ニ求メシメ南紀ノ人
北越ニ旅ヤント欲セハ北越ノ為換券ヲシテ南紀ニ
得ナシムルハ自由ヲ開キ假令其為換券拂底スト雖
トモ互ニ會社ト元為換券ナシ又其土地ノ便利ニ應
シ物産運輸ノ道ヲ開クニ助成銀行ノ法ヲ設ケ農商
産業ヲ盛大ニナシムル時ハ漸次輸出ヲ繁茂シ漸

次輸入ヲ減クシ諸品潤澤物品自ラ廉價シ窮民ヲシ
テ富有ナラシムルニ至ラハ鉄道電機瓦斯燈及學校
教育院鑛山開拓築港ノ大事業モ官費ヲ仰カス民費
ヲ煩ハサス落成ノ功ヲ奏スニ至ル何ソ歐米ノ開化
ヲ羨ニ足ラニヤ且内國融通ノ為換券ナレハ外國ノ
通用ヲ嚴禁スルトキハ其為換券ヲシテ萬古外患ヲ
醸サス其地券ヲシテ千秋ニ至リ政府ノ鉄庫中ニ
アラシメ人民ヲテ自然富有ニナラシメハ朝廷
至重ノ御交際各國ノ條理モ必然山野土民ノ垢耳ニ
貫徹シ縕袍ノ耻モ直キニ錦衣ニ變シ粗糲ノ辱モ遂

ニ滋呀ノ佳境ニ入り本邦ヲシテ富嶽ノ安キニ置キ
赫々タル皇威ヲ洋外ニ輝カサシ故ニ私共淺考微
賤ヲ顧ミス會社立ノ畧則概表ヲ以テ奉建言候
御採用ニモ相成候得ハ粉骨碎身コレヲ從事シ私共
生前ノ幸甚ノミナラス兆民ヲシテ千秋萬歲皇祚
ヲ祝シ五洲ノ民ヲシテ神州ノ君德ヲ仰カシムルニ
至ラン誠恐誠惶頓首再拜

明治九年九月廿一日

大政府下伏見町ニテ目録備地
東京府下第一區下小區長崎町百二番地小口忠治郎寄留
坂田 八郎 旅行

内務卿大久保利通殿

大坂府下土佐堀裏町一丁目三十一番地
東京府下第一大区京区箱屋町五番地富田美上寄留

平氏
田

傳

子



自由銀行規條大畧



自由銀行創立規條大畧

自由銀行ハ人民所有スルノ地價証券ヲ抵當トシテ
コレヲ其管轄地方官廳ニ預ケ及ヒ其高四分一ノ現
貨ヲ大藏省へ預ケ紙幣寮ヨリ自由為換券コレハ紙幣ニテモ
新ニ自由為換券ヲ製造スルルヲ受取コレヲ發行シ
政府ノ適宜ニ應スヘシ
以テ其業ヲ營ムニ東京府下ニラヒテ全權ノ銀行本
店ヲ開キ各府各縣下ニラヒテ同盟ノ支店ヲ設ケ地
券ヲ出セシモノニ貸與ノ法方ヲ開クコレヲ日本全
國人民代理會合ノ自由銀行ト號シ其業ヲ創立スル
規條左ノ如シ

大正十一年四月
侯爵邸

但自由銀行ハ一般銀行ト其名ヲ異ニスルト雖ト
モ事ヲ實地ニ施コスニ及ンテハ其義一也蓋シ
一般銀行ハ社中ノ資本金ヲ募リコレヲ大藏省
ニ預ケ紙幣寮ヨリ通用紙幣ヲ受取貸典ノ法方
ヲ開クニアリ自由銀行ハ同盟支店ヲ結ビ其業
ヲ營ムヤ通例ノ會社ニアラスシテ日本全國一
体合併代理ノ會社サレハ曩ニ人民ノ同盟ヲ結
ビ資本金ヲ募リコレヲ見ルヘシ規條而シテ該子コ
ノ業ヲ開クニ各々所有スル地券ヲ預リコレヲ
地方官廳ニ預ケ及ヒ其四分一ノ現貨ヲ直チニ

大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ自由為換券ヲ受取コ
レヲ發行スルニ各々資本金ヲ出スモノヲ以
テ銀行取扱ヒ或ハ役員ニ加ヘ規條ニ準シ貸典
ノ法方ヲ開クコレヲ自由為換券ト謂フヘシ

第一條

一自由為換券ヲ出スニ各民各權ヲ以テ所有ノ地券
ヲ政府ニ出シ之ニ適スル為換券ヲ自由ニ發行スル
トキハ忽然交換ノ道ヲ失フ而已ナラス唯々私便ノ
証券ト齊ク普通ヲ得スシテ却テ害ヲ醸ス弊ナキニ
シミアラス故ニコレヲ統轄スル全權ノ銀行本店ヲ

府下ニ設ケ合併支店ヲ縣下ニ建シコトヲ要ス

但為換券發行ノ制限ハ十三ヶ年ヲ期トシ其期ニ至テ直チニ通貨ト交換ヲナスヘシ然レトモ其資本金寧テ本店ニ預備シアルユヘ期後一時交換ヲ洩ル、モノアラハ之ヲシテ身普廻ヲ嚴禁ナスト雖トモ元米自由ノ為換券ナレハ之ヲ古金ト齊シク年限ヲ論セス何時ニテモ通貨ト交換ヲナスヘシ加之其金高ノ千分ノ一ヲ利金トシテ相渡ス可キコトヲ要ス

第貳條

一本店支店ニ限ラス總テ其役員ヲ撰フハ株金ノ多寡ヲ以テ論スト雖トモ其人ヲ擧クルニハ必シモ人オラ試ミ身元検査ノ上コレヲ撰任スヘキコトヲ要ス

但役員ヲ望マス通常資本金ヲ出シ加入ラナス者ハコソ限ニヨラス

第三條

一銀行許可ノ上ハ本店及ヒ支店創立ノ條例ヲ設ケ本今全國人民ノ所有スル地價証券ヲ抵當トスレハ自由為換券ヲ以テ之ニ貸與スヘキノ布告ヲ政府

ヨリ發行シ府下ハ府廳縣下ハ縣廳ノ指令ヲ以テ其支店ニ之ヲ纏メ而シテ其府縣廳ニ之ヲ備ヘ其廳ヨリ詳細調査ヲ遂ケテ其地券ノ高ヲ大藏省ニ出シ而シテ自由銀行ヨリ諸般ノ手續ヲナシ願立ツル為換券ト適當スルトキハ紙幣寮ヨリ銀行本店ニ其為換券ヲ受取りテ全國ノ支店ニ之ヲ散布シ而シテ各々地券ヲ出セシ者ニ貸與ノ法方ヲ開ク可シ

但地券ヲ出セシ者ニ追テ為換券ニ交換スル証書ヲ其支店ヨリ人民へ渡ス可シ然レトモ借用ヲ望ムサル者ニハ強テ貸與ノ權カナル可シ

第四條

一凡三府五十縣ト見積リ一府一縣下ニラヒテ為換券發行高百万圓ト定メコト四分一現貨貳拾五万圓ヲ其地方官廳ニ出シ該廳ヨリ是ヲ大藏省ニ出シ自由為換券發行ノ資本金トス尤モ相當ノ地券ハ其地方官廳ニ備フレトモ該廳ノ預証書ヲ大藏省ニ出スコトナレハ全ク地券証百万圓ト貨幣貳拾五万圓ト合テ百貳十五万圓ノ資本金ヲ以テ自由為換券百万圓ヲ發行ナシ且為換券ヲ貸與スルニ地價ヲ以テスル雖トモ其土地ノ産不産ヲ實檢シテ金高増減ス

ルコトモアルヘシ其貸典ノ方法譬ハ地所實價壹千
圓ナレハ其高七分若クハ八分ノ見積ヲ以テコレヲ
貸シ貸ス所ノ十分ノ一ヲ以テ地所破損ノ預備金ト
シテ銀行ヘ利取殘金ヲ以テ月金百圓ニ付金壹圓貳
拾錢ノ利金ヲ己ラ六ヶ月毎ニ受取十三ヶ年ノ期ニ
至リ元金ノ償却ヲ論セス抵當ノ地券ヲ返シ全民俱
ニ富有ニナサシメンコトヲ要ス

但一縣内ニラヒテ其地券ノ高數三万圓ナレハ之
レニ適スル自由為換券ヲ發行スルコト難シ之
ニ依テ其區内ニラヒテ總理スルモノヲ撰ビ該

區ノ地券ヲ取纏ノコレヲ本支銀行ニ出シ而シ
テ貸典オスヘシ尤期限中タリトモ都合ニヨリ
元利ヲ返済スルモノアルハ抵當ノ地券并ニ十
分ノ預リ金トモ連ニ返却ナスヘシ且租金取
立ノ儀ハ何月何日ヲ其期日ト定メ前以テコレ
ヲ報告シ其負債主ヲシテ其期日ニ必シモ全
店ニ利納ナサシムルコトヲ要ス

第五條

一自由銀行ヨリ發スル為換券ヲ借用スル人ヨリ出
ス利額ノ内ヲ以テ鍊道電機瓦斯燈及ヒ鑛山開拓其

余宇内諸般ノ官費ヲ補フニ金店ノ徳益ヲ以テ皇
國廣益ノ大事業ヲ建シト欲ス其本源ハ全民勉強シ
テ得ル所ノ利額ヲ以テ斯ル大事業ヲナスコトヤレ
ハ全民モ全國一体ノカラ合シ十三ヶ年ノ期大目的
ヲナシ又十三ヶ年ノ間コレニ準シテ勉強スレハ全
民ヲシテ巍然タル大社ヲ視テコレヲ保護スルニ愛
國ノ情實ヲ盡サシメシコトヲ要ス

但利額ノ内ヨリ費補金ニ出スハ十三ヶ年期ニ
限ラス其都度ニヨリコレヲ出シ官費ヲ補フヘ
キコトヲ要ス

第六條

一 資本金ヲ募ルハ一府一縣下ニラヒテ平均壹万株
トシ一株貳拾五圓ト定ム貨幣及公債証書其兩種
ニ限ルヘシモ公債証書ハ
時ノ相場ヲ此高貳十五万圓ヲ限リトシ一株幾人合
以テ論ス併スルトモ又幾千株一名ニテ出ストモ限ナカレハ
シ總額一千五百貳拾五万圓ヲ為換券發行資本金ト
シテ本文兩店自由銀行ヘ加入シ而シテ大藏省ヘ備
フ可シ其資本金百圓ニ付一ヶ月壹圓貳拾錢ノ利子
ヲ以テ毎年十二月二十日利渡ヲナシ十三ヶ年ノ期
ニ至リ一株貳十五圓ニ十分ノ五ヲ増シテ乃千三拾

七四五拾錢ヲ返却スヘシ又貳十五圓ノ銀行預り券
ヲ以テ自由為換券ノ借用ヲ望ム者ヘハ一林ニ付貳
拾圓ノ割ヲ以テ貸與シ其利子ハ百圓ニ付月壹圓ト
定ム可シ尤ルノ預り券ヲ以テ貸與スル自由為換券
ハ前ニ記ス如ク地券証百圓并ニ貨幣貳十五圓
併テ百貳十五圓ノ相當ヲ以テ發行スル自由為換
券百圓十レトモ貸ス所ノ為換券ハ乃チ平均八十
圓十レ、其殘金貳十圓ノ銀行預備シコノ金
ヲシテ資本預り券ノ相當ヲ以テ貸與スルトキハ更
ニ差聞ナカルヘシコノ預り券ハ各府各縣廳工差出

シコレヲ地券同様ノ割ヲ以テ相備ヘ置ク也且資本
金ヲ出スハ農商ニ限ラス華士族其秩祿ヲ奉還シテ
其商業ヲ開カント欲スルモ近來其利ヲ得ルモノ少
クシテ却テ損害ヲ醸スモノ多ク故ニコノ秩祿ヲ奉
還スルモノヲシテ自由銀行ニ加入ナサシメシコト
ヲ要ス

但資本金ヲ出タセシムラシテ各府各縣下支店ノ
取扱ヲナサシメ是ヲ全國一體合併支店ト唱ヘ
其取扱フ處ノ百圓ノ利金ヲ六ヶ月毎ニ取纏
メ其利金半方ヲ直チニ本店ニ出シ半方ヲ六ヶ

月ノ間支店ノ有金トナレコレニ月金百四ニ付
五拾錢ノ利子ヲ付シ本店ヨリ支店へ貸與シ年
年歳々コレニ準シ本支兩店利子ノ利子ヲ得テ
融通ナサシメンコトヲ要ス

第七條

一自由為換券ヲ以テ諸般ノ税金ニ上納スルトキハ
其為換券ヲ自由銀行ニ受取り而シテ銀行ヨリ貨幣
ヲ上納スルニ助成銀行照法方設ケ物産運轉
ノ為換ヲナスニ自由為換券ヲ以テス然ルトキハ物
産ノ代價必ス貨幣ニ化ス其化シタル貨幣ヲ以テ銀

行ヨリ大藏省ニ上納スレハ聊カ差聞アルコトナシ
然レトモ銀行ニラヒテ元來物産ノ取扱ヒ或ハ商法
ニ關スル事務ハコレヲ行ハシト雖モ其物産ノ為
換取扱ヒ若クハ其物産ヲシテ賣却ナストノ權利ハ
銀行役員并ニ助成銀行役員立會ノ上其事務ヲ取扱
フ可キコトヲ要ス

但助成銀行ヲ各府各縣下ニ設ルハ其土地ニ應シ
五ヶ所或ハ六ヶ所ノ組合商社ヲ開キ其規則ハ
適宜ニ應シテ施ス可シ

第八條

一為換券ヲ發行ナスハ一府一縣ヲ限リトシ外國人
ノ通用ヲ嚴禁ナスヘシ尤其通用ヲナストキ各府各
縣其廳ノ檢印ヲ捺スト雖トモ内國一般自由ノ為換
券ナレハ其便利ヲ開クニ譬ハ東興ヨリ西肥ニ航海
セント欲ズレハ西肥ノ為換券ヲ東興ニ求メ又南紀
ヨリ北越ニ旅行セント欲ズレハ北越ノ為換券ヲ南
紀ニ得ルノ自由ヲ開キ假令其土地ノ為換券拂底ス
ルトモ全國一体合併支店カドハ互ニ會社ノ元為換
ラナシテ其土地ノ便利ニ應シ内國互ニ交易ノ道ヲ
開キ物産ヲシテ盛大ニナサシメンコトヲ要ス

但自由銀行ニ為換ヲ賴ミ預ケ金ヲナストキ通常
ノ為換ヲ出スニ一般銀行ノ條例ヲ以テス然レ
トモ其害ヲ防カン為メ譬ハ幾箇田ノ為換券ヲ
望ム時ハ其望ム日ヨリ非常為換ノ交換ハ三ヶ
年ノ後々四ヶ年目ニナスヘキト期限ヲ該レ交
換ヲナスモノハ及古タルヘキトノ明文ヲ記載
シ非常交換ヲ約ス如何トナレハ止ト副トノ兩
券ヲ出ストキハ自然貴高ノ者正券ヲ以テ典賣
ラナシ偽名ヲ以テ副券ヲ銀行ニ出シ苦情ヲ訴
ヘ交換ヲ望ム時ハ其害必シモ生スルハ當然ノ

理ナリ之ニ因テ非常交換ハ實際變ニ遭フト雖
トモ總テ三ヶ年ノ後ニナス可シ然レハ則チ正
券ヲ抵當ニテ貨幣ヲ出ス者アルトモ其憂ヤカ
ル可シ

第九條

一本店并ニ支店ヲ設クルニハ本店ハ本店ノ權ヲ以
テ建テ支店ハ支店ノ權ヲ以テコレヲ設ケ其自由ヲ
得ルト雖トモ大体ノ規則ハ本店ノ權ニアリテ支店
コレヲ守ルヘシ然ト雖トモ本店ニラヒテ不規則不
体裁ノ更ラ生スルトキハ全店ノ議論ニ交スヘシ又

交シ難キ時ハ政府ノ裁判ヲ仰ク可シ

但各縣下支店ノ復負毎年一度本店ニ集會シ規則

ハ勿論年々新規ノ論ヲ議シ其土地ノ物産及ヒ
私業ノ義務ヲ告ケテ全店保助人民便用ノ策ヲ
建議ナオンコトヲ要ス

第十條

一今般發行スル自由為換券ハ從來ノ為換券ト違ヒ
地券ノ抵當ヲ得スシテコレヲ出スコトナク其發行
ノ日ヨリ利子ヲ得ル可シ自然年限中利金不納ノ者
アルトキハ其抵當ヲ流スニ其遼約ノ日ヨリ十五日

猶豫ヲ免シ然ル後必スシモ相當ノ地所ヲ取揚ケ是
ヲ投票スルニ其利金掛込ノ多少又ハ地所ノ良不良
ヲ論ス譬ハ一千四借用スル者利金百四ヲ出シ後チ
不納スルトキハ其利金百四而亡ヲ以テ投票ラナシ
最モ投票ノ前コレヲ區内ニ告ケ投票ラナスニ其落
票ラナスモノヨリ利金ノ多少ヲ論セス元負債主へ
渡シ其名前ヲ轉換シ其地所ヲ受取り而シテ規則ニ
準シ自由銀行へ利納スルキコトヲ要ス

但投票ノ昂其地所良地ニシテ掛込利金ヨリ投票
高多キトキハコレヲ論セス其落票スル高ラ員

債主へ渡ス可シ又不良地ニシテ掛込利金ヨリ
落票高減スルトキハ其不足金負債主ヨリ投票
主へ出ス可シ最モ落票ノ儀ハ其投票ノ高票ヲ
以テスト雖トモ不正價ナレハ落票スルコト能
ハス然ラ公卒ノ正價ヲ以テ投票スルコトヲ要
ス
右十ヶ條ノ畧則ニ準シ自由銀行創立ノ條例ヲ設ケ
會社取扱ノ規則ヲ立テ開業スルニ宅地ハ非常受合
ノ法方設ケ耕地ハ天災準備ノ資本金ヲ募リコレヲ
發行スルトキハ地所忽チ真價ヲ表シ公私兩全金銀

運轉ヲ生シ不日巍然ノ自由銀行トナリ又十三ヶ年ノ期ニ至リ農商俱ニ元地券ヲ置据ヘ再ヒ自由為換券ヲ新ニ借用スルトキハ皇國一田ノ地所千古外國ノ憂ヲ生セズ千秋ニ臻リ政府ノ錢庫ニアリテ全民金銀融通ノ門ヲ開キ本邦ヲシテ五大洲ニ冠タラシメシコト時日ヲ待タズ因テ爰ニ會計ノ概畧ヲ記ス

一縣内會計見積表

- 一金貳拾五万圓
 - 一金百方圓
- 但發行爲換券高百万圓四
但分一資本金大藏省ニ備高
但地券証ヲ以テ縣廳ニ備
高

- 一金百万圓
 - 一金十万圓
- 但自由爲換券發行高
但貸典高百万圓ノ十分一
但銀行工引取ノ金ヲ以
テ由如 watermark 早損亡ノ夕メ
預備金

一金貳百〇五万九千貳百圓

但爲換券發行高百万圓ノ
利子十三ヶ年ノ間月金
百四十分一利取金ノ利
割尤十分一利取金ノ利
子共

内譯

- 一金貳拾五万圓
 - 一金四拾六万八千圓
- 但資本金返濟高
但資本金ノ利子金百圓ニ
付壹圓貳拾錢ノ割ヲ以

一金拾貳萬五千圓

但 十三年々株主ニ相渡高七
資本金出金主ニ増ス十
分ノ五渡高

一金百萬圓

但 元金論セズ抵當ノ地券

一金拾萬圓

但 田畑水旱損亡ノ為ノ出

一金百萬圓

但 為換券引換ノ元金

一金百萬圓

但 為換券引換ノ分コレヲ

一金三十萬圓

但 為換券製造見積高其分

一金拾萬圓

但 諸般ノ費ヲ補フ見積高

一金六萬六千貳百圓

但 銀行非常備金

但 縣内資本金ノ多寡ヲ以テ發行ヲ論ス

右ニ記スハ一縣内ノ會計概畧ナレトモコレヲ各府

各縣下ニ發行スル井ハ真金高幾千万ニ升ル可シ又

前ニ記ス費補金ヲ出スモノヨリ年々國益ヲ生シ且

諸般ノ入費ヲ補ヒ或ハ社中ノ分配ヲナスハ自由銀

行ノ利額而己ヲ以テ論ス尤モ助成銀行ノ利益ヲ以

テ入費ヲ補ヒ或ハ社中ノ分配金ニ出スハコレヲ爰

ニ畧ス

前書ノ畧則ハ必竟其大體目的ヲ以テ記載スルコト

ナレハ追テ發行ノ上ハ其法方公論ニ交シ適宜ニ出

シコトラ希望ス

明治九年九月

坂田八郎 旅行

岡

傳

子



